

2024/6/29(日)13:50-16:50

「地域志向のプライマリ・ケアを実践するには」

「『やわらかな 1.5 人称』～ 薬物治療効果の構造的理解から見えてくるより良いコミュニケーションのコツ～」

講座情報

「地域志向のプライマリ・ケアを実践するには」

孫 大輔

急速な少子高齢化、独居高齢者の増加、地域共同体の脆弱化など様々な社会的課題を背景に、地域医療に従事する医療者にとって、地域社会全体に目を向け、地域住民のウェルビーイングを向上させることも重要な使命である。地域社会のウェルビーイング向上のためには「ゆるやかな紐帯(ゆるいつながり)」や「信頼に基づいた社会的交流」の重要性が強調されている。他者の多様性や個別性に寛容でありながら、困ったときには助け合う互恵性のあるコミュニティである。専門家中心の「地域包括ケア」から、すべての住民が主役となる「地域共生社会」を目指すためには、「社会的処方」など専門家と非専門家が互恵的に協働する仕組みづくりが肝要となる。

《学習到達目標》

地域志向のプライマリ・ケアのために重要な「地域社会のウェルビーイング」の考え方や「社会的処方」の取り組みについて理解できる

「『やわらかな 1.5 人称』～ 薬物治療効果の構造的理解から見えてくるより良いコミュニケーションのコツ～」

中野 重行

薬物治療効果は、薬物による改善 D が自然変動 N とプラセボ反応 P の上に乗っており、構造的に $N+P+D$ である。 D と $N+P$ の比率は病態により異なる(抗不安薬や抗うつ薬では $D \ll N+P$)。 $N+P$ を高めると治療効果が高まるだけでなく、薬物の減量や薬物が不要になる。『やわらかな 1.5 人称』はコミュニケーションの取り方に関するコンセプトで、医療者を「わたし(1人称)」、患者を「あなた(2人称)」とするとき、医療者としての1人称の立場に立ちながらも、患者の立場にも寄り添える、必要に応じて1人称と2人称の間をやわらかく行き来できる態度である。『やわらかな 1.5 人称』の姿勢は、患者-医療者間の信頼関係を深め、非薬物要因に起因する改善 $N+P$ を高めるのに役立つだけでなく、一般のコミュニケーションでも有用なコンセプトである。

《学習到達目標》

1. 薬物治療効果の構造的理解を説明できるようになる
2. 薬物治療効果における非薬物要因の影響を説明できるようになる
3. 効果的な医療コミュニケーションに重要な要因を説明できるようになる
4. 『やわらかな 1.5 人称』とその意義を説明できるようになる

講演者情報

地域志向のプライマリ・ケアを実践するには

孫 大輔

鳥取大学医学部 地域医療学講座 准教授

プロフィール

<学歴>

2000年 東京大学医学部医学科 卒業

2008年 東京大学大学院医学系研究科 博士課程修了

2014年 聖路加国際大学大学院 博士後期課程修了

2016年 マーストリヒト大学大学院 修士課程修了

<職歴>

2000年 東京大学医学部附属病院 内科研修医

2003年 虎の門病院 腎センター内科 専攻医

2004年 東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科 医員

2012年 東京大学 医学教育国際協力研究センター 講師

2020年 日野病院 総合診療科 医師

2021年 鳥取大学医学部 地域医療学講座 講師

2024年 鳥取大学医学部 地域医療学講座 准教授

<認定資格>

日本内科学会 認定内科医

日本プライマリ・ケア連合学会 家庭医療専門医

日本医学教育学会 医学教育専門家

主要著書・参考文献

孫大輔『対話する医療：人間全体を診て癒すために』さくら舎, 2018.

孫大輔『臨床と宗教：死に臨む患者へのスピリチュアルケア』南山堂, 2023.

『やわらかな1.5人称』～ 薬物治療効果の構造的理解から見えてくるより良いコミュニケーションのコツ～

中野 重行

大分大学 名誉教授、臨床試験支援財団 理事長

プロフィール

<略歴>

1965年 岡山大学医学部卒業

1966年 九州大学医学部大学院心身医学講座 大学院生

1970年 九州大学薬学部薬理学 研究生

1974年 岡山大学医学部脳研 講師
1975年 愛媛大学医学部薬理学 助教授
1975年 スタンフォード大学医学部臨床薬理学部門に留学(2年間)
1989年 大分医科大学(現大分大学)医学部臨床薬理学 教授
2003年 大分大学医学部附属病院 病院長
2005年 大分大学 学長補佐
2006年 大分大学 名誉教授
2006年 国際医療福祉大学大学院創薬育薬医療分野 教授
2011年 臨床試験支援財団 理事長

<認定資格>

医師

日本臨床薬理学会 専門医・指導医

日本心身医学会 専門医・指導医

日本内科学会 認定医

<所属学会・委員等>

日本臨床薬理学会 名誉会員(元理事長)

<受賞歴等>

2019年 叙勲(瑞宝中綬章)

主要著書・参考文献

中野重行:プラセボ学~プラセボから見えてくる治療の本質、ライフサイエンス出版、2000

中野重行:コミュニケーションは「やわらかな一・五人称」、メディカル・パブリケーションズ、2000